

## 井原市公共交通会議（平成 29 年度第 2 回）議事録

と き 平成 29 年 7 月 21 日（金）

15 : 30～17 : 00

ところ 井原市役所 4 階 大会議室

### 1. 開 会

#### 会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 24 名中 22 名（実出席 21 名、代理出席 1 名）

### 2. 三宅会長あいさつ

### 3. 協 議

#### 1) 運行見直し基準で「拡大」の基準に該当する路線の検証結果（状況）について

- ・ 事務局説明（拡大の基準に該当する路線について）

（三宅会長） 委員の皆さんから、ご意見等はないか。

（委 員） 今回初めて拡大という言葉が出てきたので、非常に良い話だと思った。結果的に昨年度のデータで見ると拡大の基準に該当していたが、今年度の検証では運行見直し基準の数値を下回っていたという趣旨の説明であった。運行見直し基準の運用フロー図を見ると、拡大するか判断は2月の段階で行い、どう拡大するかを今回の会議で議論する流れとなっており、本会議で拡大するかを判断するフロー図にはなっていない。今回行われた検証の位置付けは何なのか。そしてもう1つ、資料4ページの時間帯別利用者数の図表に出ている数字と3ページにある便当たりの利用者数の数字との関係が分からないので教えてほしい。せっかく増便を議論できる良いチャンスと思っただけに、素直に増便で検討できないのか。

（事務局） 1点目の運行見直し基準の運用フロー図について、昨年2月の公共交通会議において、拡大の基準を上回るかどうかを判断し、上回った場合は、2月～7月が試験運行案の検証期間となる。この検証結果を踏まえた上で、7月の公共交通会議において見直し案の決定となっているおり、今回の会議で見直し案をどうするかを検討している。仮に、見直し案を実施するのであれば、その後の試験運行期間に進むこととなる。

（委 員） フロー図で示されているのは検証期間ではなく、試験運行案の検討である。新しい時刻表や運行の仕方等を考えるのが2月～7月にやることで、それを踏まえて見直し案の決定をするのが今回の公共交通会議であると運行見直し基準の運用フロー図には書いてあり、検証とは書いてない。今回、基準を超えたので拡大する前提で詳細を検討する会議だと思っていた。本当に数字が正しいのかを見るための慎重な態度だと思うが、壁を越えたと思っただけに、また1つハードルが出てきた感じがする。

（三宅会長） 橋本委員のご指摘のとおり、運行見直し基準の運用フロー図の中に拡大の検証を加えていく必要があるのではないか。

（委 員） 運行見直し基準の運用フロー図の「試験運行案の検討」が、縮小に該当す

る場合では「利用状況検証期間」となっており、検討と検証が混在している。安易に便を増やすと利用が減った際、空気を乗せて走ることになりかねないため、再検証を間に挟むか、再検証および試験運行案の検討という形で中身を修正するのが良いのではないか。この運行見直し基準の運用フロー図は、井原市地域公共交通網形成計画の中で非常に重要な役割を担っており、勝手に変えては困る。問題が発生したことが分かったのなら、次回の会議において運行見直し基準の運用フロー図自体を修正することを考えなければならないし、勝手な運用にならないようにしてもらいたい。縮小の基準に該当する場合の運用フロー図も併せて、具体的に2月時点の判断でそのまま行くのか、あるいは検証を挟むのなら何が必要なのかということを考えていただきたい。

- (三宅会長) 次回の公共交通会議でフロー図の修正について協議を行うこととする。2点目の便当たりの利用者数についてはいかがか。
- (事務局) 4ページにある図表の便数の箇所は、「便」を「往復」に読み替えていただくと、3ページの便当たりの利用者数と数字が合致する。
- (委員) 片道と往復の違いであるとのことだが、表記を統一していただかないと、ものすごく不整合に見えてくる。
- (事務局) 数字については改めるようにする。
- (三宅会長) 整合性を保つようお願いしたい。他に意見はないか。  
拡大の基準を満たした好調の原因を、井笠バスカンパニーで分かれば教えていただきたい。
- (委員) 笠岡～井原線は平成24年11月の運行開始当初から高校生の利用が多い路線である。笠岡の高校に定期券の説明に向くが、定期券を購入するのは井原の中学校出身者が多い。終点の井原市民病院や井原バスセンターまでの定期を買う生徒が多いということも、好調な一因かと思われる。今後とも通学の足として皆様のお役に立てるよう、ご支援ご協力をお願いしたい。
- (三宅会長) 特に、木之子中学校や井原中学校等の生徒が、笠岡の高校にどれだけ入学しているのかが大きな要因だと思う。可能かどうかはわからないが、基準をどう満たしていくかという観点から、通学者数を調べることも必要かと思う。可能であれば事業者から情報提供してもらえればと思う。

## 2) 運行見直し基準で「縮小」の基準に該当する路線の検証結果(状況)について

- 事務局説明(縮小の基準に該当する路線について)

(三宅会長) 皆様から何かご質問等はないか。

(委員) 縮小の基準に該当する場合、10月の実績を用いて検証することになっており、10月の時点である程度利用状況が改善していないと、その次の見直し案の検討に進んでしまうことになる。2月の公共交通会議において縮小の対象路線であると決まってから10月まで約8ヶ月間ある中、7月の時点で半分以上が経過しているが、事務局として地域に対してどのような周知・

意見交換・利用促進の検討実施等を行ってきたのか。

(事務局) 資料の5ページに記載しているが、昨年度は2月に交通結節点のバス停に時刻表を貼付する等の取組を行った。今年度は、来月8月発行の公共交通かわら版において、芳井地区及び美星地区からの井原地区までの乗継方法を内容とした記事を掲載する予定としており、原稿作成を進めているところである。

(委員) 地域にとって公共交通が必要であり、減便や廃止にしてほしくない地域においては、次のステップに行かない方が良いに決まっている。これまでの期間は、10月の調査の時点で改善がみられたという方向に行くために、利用促進や何らかの取組を行う大切な時間だった。2月の段階で少しでも早めに、運行見直し基準の運用フロー図で言う「利用状況検証期間」の地域への周知・意見交換等をきちんとしておかないと、そのまま調査をしても良い結果にはならない。型通りに進めていっても、その間にやるべき作業が抜けているため、そのまま悪い方向に行くのではないかと思う。事務局だけではなく、本来であれば地域も意識しなければならない。次回に運行見直し基準の運用フロー図の修正版を提示するのであれば、詳細にやるべき作業や入れるべきデータ等を記載していないと、上手く回らない気がする。そうでなければ、地域にとって2月に議題に上がっていたことを8月に言われ、10月に改善されていなかったら減便や廃止かもしれないというのは乱暴な話に聞こえる。事務局での作業は大変だと思うが、細かく配慮したものを作り込んでいただきたい。

(三宅会長) 公共交通かわら版も役立っているが、それ以外の促進策や事務局や市の論理だけではなく、縮小の基準があることを踏まえたものをこちらから投げかけて、地域に「利用しないと公共交通が無くなる」という危機感を持ってもらえるような仕掛けが必要だと思う。私自身もなかなか気が付かないが、事務局も指摘を踏まえて様々な観点で検討してほしい。他に皆様からご意見はないか。

(委員) 自治会等を通して意見交換をする場合は、これまで何回も持たれていると思うが、どれ位の人が集まって関心を持たれたのかが疑問である。わずかな人だけの意見に偏っていないのか。当日会場で意見を聞かれてもパッと出てこないため、事前に自治会長を通して話の内容を伝えておくと意見が出やすい。

また、アンケートを実施するなら高齢者にも分かるように具体的で聞きたいことが分かりやすい項目にしてほしい。

(事務局) 平成28年10月に美星地区で乗り合いタクシーの運行を開始した際に説明会に何人の方が参加したのかについては、数字を持ち合わせていないため即答できないが、事前に自治会長に話を通して、順次地区の方に話を広めていただく方法で実施した。先ほどのご意見のとおり、事前に自治会長に話をしてから進めるという方法が一番良いと思うので、今後も同様の方法

で進めていきたいと考えている。アンケート項目についても、すぐに答えが出るようなものと考えていく。

(三宅会長) アンケートは、書く側が分かりにくいと感じたら書かなくなる。高齢者にとっては、文字を目で追うのも大変であるので、分かりやすく本質を見極められるようなものになるよう工夫してほしい。

委員の皆さんからご質問等は無いか。

(委員) 利用状況についての数字はいつも出ているが、過去を振り返った数字なので前向きな姿勢で、我々も呼びかけ等、出来ることをしていかないと数字はどんどん下がっていく。事務局だけに任せるわけにはいかないし、我々も過去に自治会長の会合等で話し合いをしてきたが、そのような会合を各地区で開催し、委員も参加し顔を見て一緒に話をするような草の根的な運動が大事ではないかと思う。

芳井地区では、利用者が1便当たり1人と寂しいため、行政が上から引っ張り、委員などが下から押し上げていく姿勢を作らないと数字は下がっていく一方だと危惧している。今後出来ることがあれば言ってほしい。

(三宅会長) 利用者側からの視点で考えていただき本当に有り難い。実際、利用者が減れば減便・縮小はしないといけないが、地域に公共交通が必要ならば利用していかなければならないことを伝える必要がある。地域の方々にとってもらうことが重要なので、そのような取組を利用者側の方々からもお願いできれば有り難い。

(委員) 予約型乗合タクシーについて、ミスマッチがあるかどうかを今後検証するということだが、現状の利用者と一番接しているのはタクシー事業者のドライバーだと思うので、ドライバーに利用者からどのような意見が出ているのか聞くのが手っ取り早いと思う。タクシー事業者にとっては、一般のタクシーを使ってもらう方が良いとは思いますが、井原市の発展のため公共交通という使命を担っていただき何とか予約型乗合タクシーを続けてもらいたい。

(三宅会長) 芳井地区の利用者が減っており、固定の利用者が何らかの理由で利用しなくなったと考えられるが、タクシー事業者や事務局で理由が分かれば教えていただきたい。

(委員) 予約型乗合タクシーは、平成22年度に初めて天神山・上野エリアで運行を開始し、平成23年度から他のエリアで運行を開始したという状況である。天神山・上野・西吉井エリアに関して、天神山では高齢で独居のため家族の元へ行くなどし、現状の利用者はいない。また、エリアの世帯数自体も少なく、まだ運転が出来る方もいるので利用する方がいない。状況的には、当初利用していた方が高齢に伴い施設への入居や病気、お亡くなりなどして利用回数が減っている。

今まで利用している方からは、とても助かり十分満足しているという声や無くなったら困るという声を聞くが、利用者のニーズに合致しなくなって

きているのではないかと感じている。何か意見やご希望があれば利用者から乗務員に言ってもらい、井原市に相談するような形を取っている。例としては、天神山・上野エリアでは乗降出来るエリアを広げてもらうなどした。決してニーズを蔑ろにしているわけではなく、要望があれば井原市に提出しているが、運行時間が決められているので、柔軟な姿勢で対応していても、実際利用している方が帰り便など十分満足しているかどうか、自分たちも考えている所である。

(三宅会長) 地域として公共交通空白地域を無くし、さらには精度を高めるために「公共交通でなくてくエリア」という考え方に基づいて取組を行っているが、バス事業者やタクシー事業者には細かい所まで対応してもらい感謝している。また、利用者がお亡くなりになり、施設に入居されるなどの生活パターンの変化は、事業者側でないと分かり得ないことであり、利用者の声を拾うなど細かい取り組みにも感謝している。今後も情報共有したいと思うので事務局にも教えていただきたい。

(委 員) 以前の会議で、乗務員の接客についての話が出たが、北振バスや井笠バスカンパニー、井原鉄道を利用した際、乗務員の対応はとても丁寧であった。井原あいあいバスの乗務員にも話したが、乗務員の対応が悪いと言われるのは、利用者に声が聞こえてない場合があるのではないかと思うので、乗務員の方からもう1回「ありがとうございます」と言ってもらえれば気持ち良く公共交通を利用出来るのではないかと思う。

もう1つは要望であるが、2月28日の公共交通会議であいあいバス芳井支所～八日市・明治線（ごんぼう村線）で芳井マーケットの停留所が新設され、葬祭ホールの出口は危ないということで少し奥へ移設されたが、利用者や乗務員から高齢者には重い荷物を持って停留所に行くのが大変で、停留所には椅子も日陰も無いので長時間バスを待つには厳しいという声を聞く。停留所の位置を、芳井マーケット付近の倉庫か芳井マーケットの入口に再移設をするか、天神峡線やごんぼう村線のルートの出発点を芳井マーケット入口にして、芳井支所を経由して八日市に行き、帰りも芳井マーケットの入口付近で利用者を降ろして、支所へ戻るルートを考えてほしいという声がある。事務局で検討をしていただきたい。

(三宅会長) 乗務員の対応は、タクシーの乗務員も含めて非常に良いということは感じており、そのように感じている方は周りにも発信してもらいたいと思う。バス停については、出来る限り要望に応えていきたい。いただいた意見を踏まえて事務局で検討させてもらう。事務局の方からも細かいことを聞かせてもらうかもしれないのでよろしくお願いしたい。

(委 員) タクシー事業者からの説明で状況は何となく分かってきたが、平成28年度に急激に井原地区で利用が減った理由を事務局がどのように把握しているか教えていただきたい。恐らく、ヘビーユーザーの生活パターンが変わったことによるものだと思うが、推測で判断するわけにはいけないので、事

務局で把握している範囲で詳しい状況を教えていただきたい。

アンケート調査を行うこと自体は良いが、実施にあたっては、利用が伸びない理由に対する仮説を立てた上で細かく調査する必要があるかと思う。どのあたりが事務局の想定している利用が伸びない原因なのか教えていただきたい。例えば、利用予約の点等の細かいポイントを掴んでいるのか、どのあたりに問題があって減少に転じているのか、本来のアンケート調査は、ある程度目星を付けて広く実施するものだと思うので、そのある程度目星を教えていただきたい。

(事務局) 減少要因については、少数の固定客が複数回利用しており、利用頻度が高い方が利用しなくなったことで、減少幅も大きくなっている。誰がどの程度利用しているかについては、事務局でも把握できるが、お亡くなりになったという話であったり、事務局では知り得ない情報もあるためタクシー事業者に教えてもらいながら、細かい原因については可能な限り把握していきたいと思う。

アンケート調査については、利用が伸びない原因として固定の利用者が利用できなくなったことも1つの原因ではあるが、例えば、曜日を変えれば利用者が増えるかもしれない。また、利用方法が分からない方や利用の抵抗感がある方もいるかもしれないと考えている。現在の方法で乗りにくいという意見があれば、簡単な登録方法など具体的にお知らせする必要があると思う。

(委員) 問題は、その曜日を把握しているかどうかということである。実際に出ている声を拾った上で、曜日について検討するなど、既に運行しているものについての改善策を考えるわけなので、現況どこで困っているのか理解した上で、それが一般的な意見なのか検証するのがアンケート調査である。もらった意見や要望をリスト化し、その上で、その意見が本当なのか調べるために広くアンケート調査をするという話だと思うので、曜日の変更などの調整をする前に、地域の方や利用していない方にも意見を聞くなど調査の前の段階でひと手間加えてもらいたい。

(三宅会長) せっかくのアンケート調査なので、気付きや啓発という意味も含めた調査になるよう工夫してもらいたい。

(委員) 予約型乗合タクシーを初めて利用した方や新しく導入した地域の方に1～2ヶ月経過してどういった印象を持たれているか把握し、もし不都合があれば公共交通会議で議題として挙げて検討する必要があるのではないかと。継続して利用したいという思いがあれば意見や要望が出てくると思うので、サービス業としてはそのあたりを改善してお客様満足度100%を目指したい。

美星地区で運行を始める際、全世帯に時刻表を持って挨拶に回ったが、今後利用したいという方が5名いて、いずれは利用してもらえないかと思っている。乗務員からも情報を聞いているが、なかなか話も出て来

ていないようなので情報があれば知らせてもらいたい。

(三宅会長) 予約型乗合タクシーに磨きをかけるためにも、タクシー事業者において利用者からの声を拾っていただくとともに、事務局でも情報を集めていきたい。

(委 員) 公共交通を利用しない理由として、家族が学校への送迎や病院への送迎するケースが多いのではないかと思う。美星地区では、運転免許証が無いと生活出来ず、公共交通を利用出来るのは元気な証拠である。高齢者になると家族が送迎するが、独居の高齢者は美星地区から出てしまう。美星地区は自家用車がないと生活できないので、公共交通を利用するよりは家族が面倒を見る状況が多い。アンケートは、運転免許証を持っていない人や実際に利用する方にも取っていただきたい。

(三宅会長) 家族に負担がかかっているのは間違いないことであり、独居の高齢者が多いことも事実である。アンケート調査については、事業者や利用者など色々な方から多く意見をもらいながら実施方法を詰めていきたい。アンケート調査は様々な観点から実施する必要があると思うが、複雑になると結果としてよく分からないことにもなりかねないため、精度を高める工夫をしていきたいと思う。

運行見直し基準に該当する路線の検証結果については、次回も皆様にご協力願うことにして、その他については、皆様にいただいた意見を踏まえて実績を上げ、細かい所にまで手の届く公共交通を構築したいと思う。

説明が終了したので進行を事務局にお返りする。

### 3) その他

(事務局) 様々な意見をいただきましたので、事務局の方で修正し、次回の会議で協議をお願いしたいと思う。次回の会議は10月下旬を予定しており、日程が決まり次第ご案内させていただく。

(委 員) 本日は熱心に協議いただき感謝している。本日の議題の中には、今後廃止が予想される路線が示されており、地域が守らないと公共交通は自然消滅してしまうので、地域で協議して分かったことを事務局に言ってもらい、事務局と相談しながら検討してもらいたい。

## 4. 閉 会

以上